

平成 28 年度

事業報告書

(事業年度：平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

## 1. アルペンスキーチーム

### (1) 事業の成果

- ① 選手強化学業はチームが企画した合宿の日程やスタッフ派遣の変更があったが、予定通り実施した。
- ② 体制整備事業は10月強化スタッフ会議でスタッフ間の連携を図るために再度スタッフの役割を明瞭し、「報連相」がスムーズに捗るためにし、SMS等を活用した。
- ③ 選手発掘事業ではデフわんぱくスキー教室で有望な選手を発掘するために活動し、ジュニア合宿も1回開催した。

### (2) 事業に対する評価

- ① スタッフ間の連携不足、コーチの都合による合宿の日程変更・スタッフ派遣の変更があり、選手に多少不安を与えてしまった。今後はより緻密な打ち合わせ（「報連相」）をしながら計画性を持ち、早急に対応できるようにしていく。
- ② 体重増加、合宿不参加等強化指定選手としての自覚が欠けているため、アンチドーピング研修会だけでなくメンタルや栄養学等の講習会を開催し、身体的・技術的強化だけでなく選手としての生活の改善、メンタル面の強化等を図る必要がある。
- ③ デフわんぱくスキー教室以外でアルペンスキーに興味を持った高校生にもジュニア合宿の参加を声かけ、実施した。今後もジュニア合宿を2回開催して行く。

### (3) 課題と今後の取り組み

#### 【課題1】

複式簿記に対応していないため、総勘定元帳を作成することができない（JSC実態調査指摘事項）

#### 【取組方法1】

Excelで動作する複式帳簿を作成することにより、JSCの要求する複式簿記に対応するようにした

#### 【課題2】

短・長期財務計画書を作成できていない（ガバナンス強化チェックリストより）

#### 【取組方法2】

税理士法人オフィス921の支援を受けることにより、協会としての短・長期財務計画書を作成できる体制にした

#### 【課題3】

団体独立事務所を設置できていない

### 【取組方法3】

H29年度より団体独立事務所を設置できるよう、選手登録費、公認料の新設など資金造成の検討を行う

## 2. アルペンスノーボードチーム

### (1) 事業の成果

平成27年度末時点の強化指定選手7名を対象に、デフリンピックに対する本気度、強化合宿に対する取り組み姿勢などについて再評価を行い平成28年度の指定強化選手を強化指定選手1名、ジュニア強化指定選手1名、育成選手1名に絞り込んだ。

平成28年度の強化合宿は、将来性が期待できるジュニア強化指定選手にもっと大会経験を積ませるために月2回のペースで国内レースに参戦、その翌週の合宿ではビデオを見ながらコーチとマンツーマンでレース当時の振り返りをしてもらおう等、大会実践能力の向上に軸足を置いた強化合宿とした。

その結果、3月のデフスノーボード世界選手権大会までに国内レースに4回参戦することでレースを通して試合の流れや雰囲気、レース中のモチベーション維持方法、レースの駆け引き等、基本的な実戦能力を身につけることができた。

その成果が功を報じて、O選手はデフスノーボード世界選手権大会において世界の強豪を相手に初出場ながらも5位入賞という素晴らしい結果を残すことができ、2年後のデフリンピックに向けて幸先良いスタートを切ることができた。

### (2) 事業に対する評価

3月の第2回デフスノーボード世界選手権大会に、ジュニア強化指定選手として初めて参戦したO選手は、スノーボード競技を本格的に初めて2年目にして世界強豪を相手に5位入賞の結果を残せたことは、次のデフリンピックに繋がる素晴らしい内容だったと思う。

デフスノーボード世界選手権大会に出場した選手数は少ないが、レベル的にはデフリンピックと同じで国内の健聴者大会と同等もしくはそれ以上のレベルであり、O選手にとって自分の力量が世界レベルのどこまでのぼりつめたかを知る良いきっかけになったのではないか。それだけでなく、5位入賞という結果を残したことで、彼は2年後のデフリンピックに向けて大きく自信をつけることができたのではないかと思う。

一方、H選手は昨春に膝靭帯断裂という大怪我、昨夏に日材靭帯再建手術をしたにも関わらず、強化合宿に積極的に参加、リハビリと練習を積み重ねる等努力を続けてきた。本来であれば復帰に1年以上かかるのに、術後8ヶ月目にして世界選手権大会に出場出来た事は本当に素晴らしいと思う。

来シーズンは、今シーズンの反省点を活かして、夏場のトレーニングの充実、パワーアップ・技術力アップをしていく事を計画したい。更に、フィジカルトレーニングを通して体作りや技術に対しての理解力アップ、選手の技術レベルで足りない部分の強化をしていきたいと考えている。

### (3) 課題と今後の取り組み

#### 【課題 1】

複式簿記に対応していないため、総勘定元帳を作成することができない (JSC 実態調査指摘事項)

#### 【取組方法 1】

Excel で動作する複式帳簿を作成することにより、JSC の要求する複式簿記に対応するようにした

#### 【課題 2】

短・長期財務計画書を作成できていない (ガバナンス強化チェックリストより)

#### 【取組方法 2】

税理士法人オフィス 921 の支援を受けることにより、協会としての短・長期財務計画書を作成できる体制にした

#### 【課題 3】

団体独立事務所を設置できていない

#### 【取組方法 3】

H29 年度より団体独立事務所を設置できるよう、選手登録費、公認料の新設など資金造成の検討を行う

## 3. スノーボードフリースタイル

### (1) 事業の成果

年間を通して以下のような成果を上げることができた。

- ① 建物の 3～4 階と同じくらいの高さから人工芝の斜面を滑り降り、ジャンプしてエアーマットに着地できるコースと緩やかで幅の広い人工芝の斜面を滑り降りられるコースが同じ場所にある安全性の高い施設で合宿を行い、スノーボードの滑走技術を向上させることができた。
- ② 4 月後半から 12 月初めまで屋内にある人工雪のハーフパイプ施設 (全長 100m 高さ 4m 幅 14～17m) でハーフパイプの滑走技術を向上させることができた。
- ③ スノーボード専門学校のトレーナーによる、体力測定及びトレーニングを年 2 回実施し、体力向上や身体全体をうまく連動させる為のトレーニングを積むこと

ができた。

- ④ アメリカにある標高3000mのゲレンデにて滑り込みを行い、日本と違う雪質や様々な斜面に対応できる滑走技術及び標高の高い場所に適応する体力を身につけることができた。
- ⑤ 国内のゲレンデで数多くの合宿を実施し、また FIS 大会及び JSBA 大会に参加した。その結果、スノーボードの総合的な滑走技術を上げることができ、大会での経験や実績を積むことができた。
- ⑥ ジュニア育成選手2名には上記のほとんどを強化指定選手とともに積極的に参加してもらえた。

## (2) 事業に対する評価

強化指定選手の技術レベルに個人差はあるが、大きいハーフパイプや大きなジャンプ台、難しいコースがデフリンピックの競技会場だとしても好成績を取られるには強化指定選手全員がもっと基礎練習を積み重ね、技術レベルを高める必要があったので、コーチに強化合宿での練習内容について意見を出してもらい昨年度よりハードルを高くした練習を数多く実施した。

また、標高が高く大きいハーフパイプがあるアメリカで強化合宿を行い、強化指定選手の限界スピードの向上や大きいハーフパイプに合わせた細かな技術の練習を実施した。

その結果、強化指定選手それぞれの技術レベルを向上させることができたので、チームとしてはデフリンピックに向けて順調に成果が出ている。

また、ジュニア育成選手には強化合宿で強化指定選手と一緒に練習できる機会が増えたことで滑走技術を大幅に高めることができた。また大会経験を積むことができた。

その結果、FIS 公認大会で6位入賞という好成績を残せたのでデフリンピックに向けて自信を持ってくれたのではないかと思う。

次年度は今年度の反省点を基に強化指定選手及びジュニア育成選手の技術レベルの底上げができるように強化合宿の練習内容を計画して実施していく。

またスノーボードの技術レベル向上に繋がるよう様々なトレーニングの指導を実施していく。

## (3) 課題と今後の取り組み

### 【課題1】

複式簿記に対応していないため、総勘定元帳を作成することができない (JSC 実態調査指摘事項)

### 【取組方法1】

Excel で動作する複式帳簿を作成することにより、JSC の要求する複式簿記に対応するようにした

#### 【課題 2】

短・長期財務計画書を作成できていない（ガバナンス強化チェックリストより）

#### 【取組方法 2】

税理士法人オフィス 921 の支援を受けることにより、協会としての短・長期財務計画書を作成できる体制にした

#### 【課題 3】

団体独立事務所を設置できていない

#### 【取組方法 3】

H29 年度より団体独立事務所を設置できるよう、選手登録費、公認料の新設など資金造成の検討を行う

### 4. カーリングチーム

#### (1) 事業の成果

平成 28 年度は、デフリンピックの中間目標として掲げている「世界ろう者カーリング選手権大会」にターゲットをおき、①強化選手の技術向上 ②女子チーム立ち上げ・世界選手権大会の参加 を重点的に行った。そのため、事業数、金額ともに平成 27 年度と比較しかなり増えている。特に選手強化活動事業として 30 を超える事業を計画し、大会資格が得られず事業中止となった以外（2 事業）は全て予定通り消化できた。また体制整備事業についても、よりよい事業を実施するために、強化スタッフ・コーチが密に話し合いをしたことが、成果につながった。

世界ろう者カーリング選手権大会では、男子は 4 位、女子は初出場ながら 6 位に入賞できたことは、これらの事業の成果だと自負できる。

#### (2) 事業に対する評価

平成 28 年度は、男子の活動と女子チームの立ち上げを同時に行ったために、かなりタイトな事業スケジュールになってしまい、強化スタッフの負担が大きくなってしまった。とにかく世界選手権大会での目標を達成すべく、がむしゃらに事業をこなしたという感が否めない。もちろん成果が出せたのでそれも良かったが、次のデフリンピックに向けては、さらに①効果的 ②効率的に行う余地があるという手応えがある。事業そのものが無駄なく成果につながるようにするために、まずは強化指定選手の選出から厳しく見直し、さらに機器・機械を取り入れたデータ化をしていく必要がある。

(3) 課題と今後の取り組み

【課題 1】

複式簿記に対応していないため、総勘定元帳を作成することができない (JSC 実態調査指摘事項)

【取組方法 1】

Excel で動作する複式帳簿を作成することにより、JSC の要求する複式簿記に対応するようにした

【課題 2】

短・長期財務計画書を作成できていない (ガバナンス強化チェックリストより)

【取組方法 2】

税理士法人オフィス 921 の支援を受けることにより、協会としての短・長期財務計画書を作成できる体制にした

【課題 3】

団体独立事務所を設置できていない

【取組方法 3】

H29 年度より団体独立事務所を設置できるよう、選手登録費、公認料の新設など資金造成の検討を行う